

都市生活生協支援 第11号  
 1995.7.4  
**救援ニュース**

都市生活現地救援本部  
 西宮市今津山中町9-9  
 電話：0798-36-6679

**第一回目の青空市を終えて**  
 そしてこれから……

東神戸支部 ポーアイ地区 大沼和世さん

ポーアイには二千数百戸の仮設住宅が、コンテナ置き場やサッカーグラウンドだった場所に、四つのブロックに分かれて建っています。高齢者が多いだろうに、買い物にも不便で気の毒だなアと思っていました。6月、久しぶりに開かれた班代表会で、前年度運営委員中心に、そんな思いの有志で相談して仮設住宅対象に青空市をやってみることにすぐ決まりました。一度だけでは意味がないので、毎週開催することを念頭に、生鮮品を少なめに発注し、二週間後の6月21日に開催の運びになりました。

当日は、救援本部の方々と、私たち組合員六人とで、暑い中四時間余りで品物の多くを売り、盛況の内に終えることができました。



神戸新聞 6/22(木) 朝刊より

各会場で待ってくれている人がいて、来週また来ますという、ぜひ、と言われ、やはり買い物の不便さを少しでも補うためにも、当分の間続ける必要を感じました。

ブロックの肉のままでは扱いにくい、野菜が充実できないか、な



仮設交流会・青空市のお知らせ

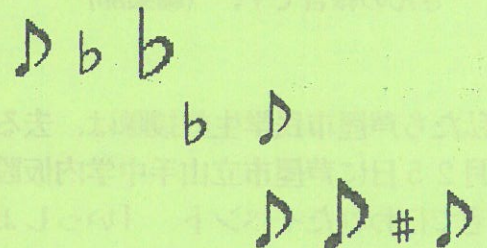
- 7/5 救援青空市 (ポートアイランド)
- 7/7 仮設交流会 (尼崎、橘公園)
- 7/15 陶器市 (都市生活西宮センター)

詳しくは現地救援本部  
 (TEL 0798-36-6679) まで



と売る側として問題がまだまだあります。また継続してやっていくには、私たち仲間が多い方がいいので、チラシで各班に呼びかけてスタッフを募集することにしました。陶器やリサイクル品を扱ったり、他にできることはないか模索中です。

実際に仮設住宅に行って、続けていく中で、何か他に少しでも役立つことがあれば……と思って、これからはしばらく、仲間ががんばってみようと思っています。



♡♡♡♡ 現地救援本部 INFORMATION ♡♡♡♡

ふれあいセンターの設置について

★現在、おおむね100戸以上の仮設住宅地に1ヶ所の割合で、「ふれあいセンター」の設置がすすんでいます。これは、①仮設住宅に住む高齢者等に対し、ふれあい交流を通じて心身のケアを行い、②仮設住宅内外のコミュニティ形成の場や、③被災された方の自立・自活を支援するボランティア活動の拠点等となる場を提供するために県が進めているものです。

★ふれあいセンターの管理運営は、市町が募集・選考した民間の支援組織が行うことになっています。建物の構造は、仮設プレハブの平屋建てで、規模はおよそ100㎡だそうです。

★室内は50㎡程度の洋間と6畳の和室、さらに10㎡ほどの会議室があり、炊事施設は電気・水道(ガスは不可)がととのっています。

★都市生活生協では仮設住宅への支援活動を行っていますが、つねに活動できる場所や住民のみなさんと交流できる場所が必要です。救援本部としては県と連絡を取り、各市町内のふれあいセンター設置場所のリストを入手中です。リストを必要とされる方は現地救援本部(☎0798-36-6679)までご連絡ください。



時おり小雨の降る6月23日(金)、仮設住宅への2回めの救援青空市を、現地救援本部の全面的なバックアップのもとに開催することができました。今回は六甲アイランドの北端にある第6仮設住宅(約500戸)での開催です。

トラックの到着と同時に列ができ、皆さんは今か今かと待っておられました。前回(5月26日)

の経験から、今回は野菜を多くしました。そのたくさんの野菜を下ろしたり、並べたり、小分けしたりと、てんてこ舞いしていると、列に並んでおられる方が見かねて、「手伝おうか」と声をかけ

てくれました。開店準備にはいくらでも人手がいますので、遠慮なくお願いしました。

また、今回はリサイクル生活用品の申し込みも受け付けることに

し込みをいただくことができました。

こんな風に仮設住宅の方々にも色々とお手伝いいただいた青空市でした。

## 救援青空市 in 六甲アイランド

東神戸支部

六甲アイランド地区

金沢 絵里さん

なっていたんです。ところが、青空市に手が取られて、なかなか受け付けられませんでした。すると、今度は初老の男性が、「じゃあ、俺がやってやる」ってな調子でお手伝い下さり、大助かり。そして、たくさんのリサイクルの申

ね油」が喜ばれたのは言うまでもありません。

私たちRIC地区組合員も、微力ながらお役にたててうれしく思いました。

現地救援本部、友好生協の皆さん、ありがとうございました。

仮設住宅の方には、お店が遠いので、青空市の野菜、牛乳、ジュースなど重い物はとくに好評でした。また、友好生協の方々からのプレゼントの「足ふきマット」と「なた

### 「いっしょにお茶しませんか！」

6月25日、芦屋市立山手中学グラウンド内の仮設住宅(55戸)で、都市生活と2つの地元ボランティアグループとが合同で交流会を開きました。ここに掲載するのはその一つのグループ、芦屋市民学生救援隊の堀北瑞江さんの報告です。(編集部)

#### 芦屋市民学生救援隊 堀北瑞江さん

私たち芦屋市民学生救援隊は、去る6月25日に芦屋市立山手中学内仮設住宅で行われたイベント、「いっしょにお茶しませんか！」に参加し、クッキーを仮設住宅の皆さんにプレゼントしました。このクッキーは、都市生活現地救援本部より材料を提供して頂き、私たち救援隊のメンバー数名が手作りし、メッセージをつけて前もって用意していたものです。住人の方以外にはお買い上げ頂いたのですが、おかげさまで大好評、あっという間に完売してしまいました。

当日は、都市生活

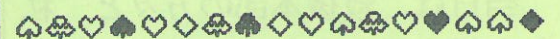
の組合員の皆さんが青空市を行いつつ、カレーをふるまって下さり、芦屋のボランティア「あぶらいず」よりお団子やお菓子、KTH共同作業所からもきれいなお花の鉢植えがプレゼントされていました。よく晴れたお昼でしたので、皆さん木陰に集まって楽しん



神戸新聞6/26(月)朝刊より

で頂けたと思います。

住人の方どうしが、今回のお茶会で初めて会って、言葉をかけあったという場面もたくさんありました。私たち救援隊では、今後もこういった活動を続けていきたいと思っています。みなさんは是非遊びにいらしてくださいね。



#### 現地救援本部

### 新スタッフ紹介

グリーンコープ連合

とがみ よしかず  
砥上 良和

博多から夜行列車にのって一眠りした後、車窓から眺める景色にブルーのシートが目につきはじめて、気がつくと明石にはいつていました。

震災の後とは目をこらしていると、既に空き地になった土地と、割ときれいな建物と作業中のビルばかり、まるで新しく発展中の都市を眺めているようでした。震災直後にテレビなどで見た光景から想像していた光景とずいぶん違っていました。6月28日から7月14日までの2週間ちょっとの間ですが、何が出来るか分かりませんが、精一杯がんばりたいと思っています。